

公表

## 事業所における放課後等デイサービス自己評価

公表日：令和7年3月31日

|         |    | チェック項目  | はい | いいえ | 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など  |
|---------|----|---|----|-----|--|
| 環境・体制整備 | 1  | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。  | 6  | 2   | 人数に対してのスペースや机などの備品は十分であるが、構造的にやや狭く不自由に感じるときがあるが、工夫しながら対応している。  |
|         | 2  | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。   | 6  | 2   | 基準上の人員配置はされているが、曜日や利用児童によってばらつきがある。自由遊びを見守る職員が少ないと感じるときがあり、基準に加え、実情に合った職員配置を心掛けたい。                     |
|         | 3  | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 6  | 2   | 室内は構造化されており、児童たちもここの生活が習慣化されている。視覚的に情報を伝えているが、より、1人1人に沿った方法での伝達をしていきたい。                                |
|         | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 | 7  | 0   | どちらともいえない1<br>整理整頓が不十分で荷物が乱雑に置かれている時もあるため、気をつけるとともに、空間的な配慮をしていきたい。                                     |
|         | 5  | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。  | 8  | 0   |  |
| 業務改善    | 6  | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。  | 8  | 0   |  |
|         | 7  | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。                                  | 7  | 1   | 評価表を毎年行っているが、すべての内容を業務改善できているかというところではない。1つ1つできることから改善に努めている。  |
|         | 8  | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。  | 8  | 0   | 職場内は話しやすく、ミーティングでの意見交換もできている。  |
|         | 9  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。  | 3  | 5   | 現状、第三者による外部評価は行っていない。<br>法人全体で外部評価について検討していく。  |
|         | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。                                     | 7  | 1   | 研修参加者からの伝達講習や、専門職による研修会等行っているが、外部の研修への参加者が固定化されてきているので、多くのスタッフが研修に参加できる仕組みを考えていく。                      |
|         | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。   | 8  | 0   |  |
|         | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。                | 7  | 0   | どちらともいえない1<br>児発管自身が途中と評価しているが、他のスタッフとしては、現状丁寧なモニタリングと支援計画の立案がされていると感じている。多くのスタッフの意見が反映される仕組みを作っていきたい。 |
|         | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。  | 8  | 0   | ミーティングの時間を大切に、全スタッフが意見交換できるようにしている。  |
|         | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。   | 7  | 0   | どちらともいえない1<br>ミーティングの時間を大切に、また、日々の打ち合わせの時間にも共通理解のもと、支援が実行されるように心掛けている。                                 |
|         | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。   | 3  | 4   | どちらともいえない1<br>標準化されたフォーマルなアセスメントツールの活用がもっと充実すると良いと考えており、現在アセスメントシートを見直し、次年度から使用開始する。                   |

|            |  |  |   |  |   |
|------------|--|--|---|--|---|
| 適切な支援の提供   | 16   | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 8 |  |   |
|            | 17   | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。   | 6 | 1  | どちらともいえない1<br>現状、勤務体制の問題もあり、チームでの立案が十分にできていないと感じるスタッフもいる。新年度から体制を変更し、立案の時間を確保できるようにしていく。  |
|            | 18   | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。   | 6 | 2  | 少し固定化されていると感じるスタッフもいる。プログラムは大切にしつつ、その日その時の子どもの生の姿を大切に、柔軟な支援も行っていく。  |
|            | 19   | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。   | 7 | 1  | 利用の曜日で個別課題と集団課題を組み合わせることが難しい部分もあるが、なるべく必要に合わせて組み合わせられるよう考えていく。  |
|            | 20   | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。  | 8 | 0  | 事前の打ち合わせの中で、子どもの様子やその日の支援内容を共有し、同じ視点で支援ができるよう努めている。   |
|            | 21   | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。   | 3 | 5  | 支援終了後、全員集まったの振り返りの時間が設けられていない。気づいたことをその都度報告しあっているが、可能な限り、振り返りの時間の確保に努めたい。   |
|            | 22   | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。   | 8 | 0  |   |
|            | 23   | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。  | 8 | 0  |   |
|            | 24   | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。   | 7 | 1  |   |
| 25         | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 6  | 2 | 子どもの気持ちを尊重することを大切にしているが、支援者が決定している場面もあるように感じる。今一度、自己決定をする力を育てるための支援について立ち返り支援していく。 |   |
| 関係機関や保護者との | 26   | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。   | 8 | 0  |   |
|            | 27   | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。   | 7 | 1  | 他機関との連携は大切にしているが、まだ関係性が十分とは言えない機関もあり、少しずつ関係を構築中。特に教育機関との連携は強化していきたい。  |
|            | 28   | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。  | 6 | 1  | どちらともいえない1<br>近隣の学校とは連携が取れてきているが、複数学校がある中ですべてが同じ状況ではばいため、関係構築に努めていく。  |
|            | 29   | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。   | 4 | 3  | どちらともいえない1<br>移行の際には支援会議で情報交換を行っているが、就学後から利用を始めたお子さんの情報共有はできていない。また、利用開始後も継続して連携を取ることができていない。必要のあるお子さんについては、相互理解に向けて情報共有に努めていきたい。 |
|            | 30   | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。   | 3 | 4  | どちらともいえない1<br>小学生、中学生までが対象で、今までに障がい福祉サービス事業所等へ移行するお子さんを支援したことがない。   |
|            | 31   | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。  | 3 | 5  | 困難な事例では、上伊那圏域障がい者支援センターへ相談するなどしているが、児童発達支援センターとの連携はまだ取れていないので、今後関係を構築していきたい。  |

|          |    |  |   |   |   |
|----------|----|--|---|---|---|
| 連携       | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。   | 1 | 6 | どちらともいえない1<br>ここ数年、何か方法がないかと考えているが、現状できていない。保護者の意向や行政とも相談しながら、できることから始めていく。   |
|          | 33 | (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。   | 7 | 1 | 固定化された職員になるが参加し、事業所内で情報共有をしてもらっている。   |
|          | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。   | 8 | 0 | お迎えの時にその日の様子を伝えているが、こちらからの発信だけではなく、保護者の方の思いや悩みも聞けるように心掛けている。  |
|          | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。               | 7 | 0 | どちらともいえない1<br>毎年研修等の機会は設けているが、今年も1回開催できたので、多くの方に参加してもらえるよう回数を増やしていきたい。  |
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。   | 8 | 0 |   |
|          | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。         | 8 | 0 | モニタリングや個別支援計画の説明は保護者だけでなく、お子さんにも一緒に説明をしている。   |
|          | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                                 | 8 | 0 |   |
|          | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。  | 8 | 0 |   |
|          | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | 1 | 7 | 講演会や研修の場や、保護者交流会を開催し、その時に保護者同士の交流がはかれるようにしているが、回数や時間的にも十分とは言えない。現在、きょうだいに関する相談はなく、きょうだい同士の交流の場は設けていない。保護者の中には交流を望まない方もいるので、まずは保護者の希望を確認し、出来る事から始めていきたい。 |
|          | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       | 8 | 0 |   |
|          | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。                   | 7 | 1 | お便りを発行したり、HP、らくらく連絡網を通して情報発信を行っているが、十分な発信ができていないといえない。HPはリニューアルしているが、その他の発信方法も再検討していく。  |
|          | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。  | 8 | 0 |   |
|          | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。  | 7 | 1 | 配慮を心掛けているが、情報がうまく伝わらない場合もある。その際は、伝わらなかった原因を考え対応していく。  |
|          | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。  | 1 | 7 | 地域との交流の機会を模索しているが、現状できていない。通っていることを公にしたいご家庭もある中で、個人情報も守りながらの開かれた事業運営の難しさを感じる。地域の図書館や出前講座、法人内の他事業との交流から始めているが、保護者の希望も確認しながら行っていきたい。                      |
|          | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            | 8 | 0 |   |
|          | 47 | 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  | 8 | 0 |   |
|          | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。  | 6 | 1 | わからない1<br>事前のアセスメントによる内容を職員間で周知徹底する。また、情報の更新が不十分なお子さんもいるため、毎年アセスメントシートの情報を更新していく。   |

|         |    |  |   |   |   |
|---------|----|--|---|---|---|
| 非常時等の対応 | 49 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。   | 6 | 2 | アレルギーを申告される方の中に、病院での診断を受けていないお子さんもいて対応に困ることがある。アレルギーと分かっているお子さんに関しては、おやつを持参してもらうなど注意して対応している。 |
|         | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                     | 8 | 0 |   |
|         | 51 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                        | 6 | 2 | まだ、保護者への説明までは不十分なため充実させていく。   |
|         | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。  | 8 | 0 |   |
|         | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。   | 8 | 0 |   |
|         | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 6 | 2 | 身体拘束を計画に立案するお子さんは現状いないが、必要性や方法については研修を行っており、必要時にはチームで十分な検討を行う体制は作っている。                        |